

令和6年6月18日

八頭町議会

議長 尾 島 勲 様

議会広報常任委員会

委員長 緒方 陽紀

(公印省略)

議会広報常任委員会視察調査研修報告書

八頭町議会議会広報常任委員会は、令和6年4月24日に調査研修を終了したので、八頭町議会会議規則第77条の規定により、別紙のとおりその結果を報告する。

議会広報常任委員会視察調査研修報告

報告者 議会広報常任委員会委員長 緒方陽紀

日時 令和6年4月25日(木) 10時～

場所 大山町議会 図書館

参加者 委員7名 事務局1名

研修テーマ

「議会広報紙作成について」

目的

昨年、第38回町村議会広報全国コンクールにて全国3位「優秀賞」を受賞した大山町議会広報常任委員会は、本町と同じくタブレットを使用し議会だよりを作成している。限られた作成期間で、どのような過程を経て優れた議会広報紙を作成しているのか、企画・編集の具体的な方法を学ぶ。

研修内容

企画立案・編集・発行までの工程について、「議会だよりだいせん75号」を例に具体的な説明を受け、その後、事前に伝えておいた質問の回答を受けた。(以下、八頭町との相違点を抜粋)

～企画立案・編集・発効までの工程について～

- ・デスク4名、記者4名に分かれて取材・原稿作成、編集の役割を分担している
- ・校了までの期間は約50日(八頭町は約30日)
- ・毎号、印刷会社とオン・オフラインにて2～3回程度協議を行っている。
- ・印刷会社へ入稿する原稿は出来る限り完成度の高いものに仕上げる
- ・表紙の写真と特集記事は関連性を持たせている。
- ・町民インタビューの際、必ず編集を行うことを伝える。など

まとめ

広報紙をA4サイズより少し大きくするなど、住民に議会だよりを手にとってもらい、読んでもらう為の工夫を追求していると感じた。「正確性や全てを網羅しないといけないという視点より、町民目線に合わせる。常に葛藤はあるが、最後は必ず読みやすさを取る。」という話が印象的だった。

編集作業の効率化、初稿原稿のクオリティの向上、印刷会社とのやりとりなど見習うべき事が多くあり、今後委員会で協議し取り入れていきたい。